

平成30年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	江田島市立江田島小学校
-----	-------------

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

本校は、「食事と健康について関心を持たせ、実践できる力を育む。」を短期経営目標に掲げて教職員全体で食育に取り組んでいる。食べる力をつけさせるために給食時間における指導や自分の食事量を考えて給食を完食することができるように取り組んでいる。朝ごはんについては、食事内容に課題がある。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- よい食事マナーでなかよく、楽しく食事することができる。特に正しく食器類を配置し、食器を持って食べることができる児童の割合を100%に近づける。
- 主食・主菜・副菜が揃った朝ごはんをほぼ毎日食べることができる児童の割合を60%以上にする。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 主食・主菜・副菜が揃った朝ごはんを食べることの啓発

- 保健給食委員が朝会で朝ごはんについて全校に発表した。
- 1年生のPTCで児童と保護者に対して指導を行った。

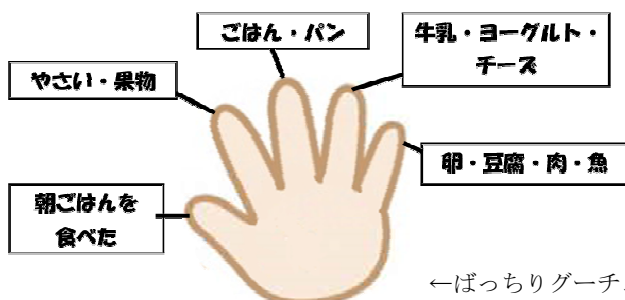
指導内容 （1）朝食を食べるとよいことくあたま、からだ、おなかのスイッチ>
（2）朝食の内容くばっちりグーチェック>

（当てはまるもの、食べたものは指が曲げられるようにし、グーになる朝食を目指す）

- 事後の取組 （1）発表した内容をホワイトボードにはり、廊下に掲示した。
（2）発表した様子と内容を食育通信にのせて、配付した。



↑朝会の発表の様子



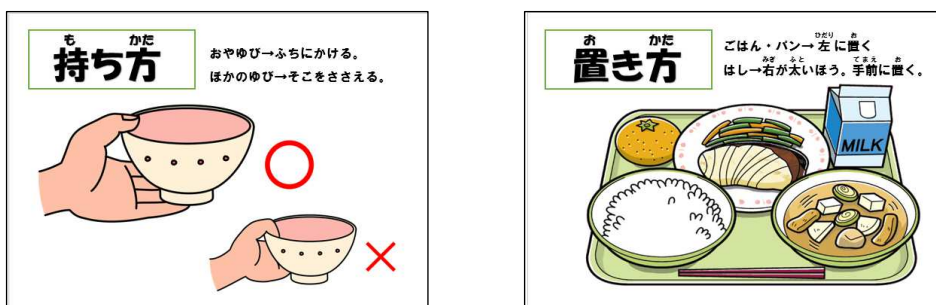
←ばっちりグーチェック



↑食育通信

【取組2】(テーマ) 給食時間のマナーの指導

1. 給食時間の巡回指導の際に、食器の置き方や持ち方に関して積極的に声かけを行った。
2. 食器の置き方、持ち方の掲示資料を各クラスに配布し、クラスでも指導できるようにした。



↑ 配付した掲示資料

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

1. 啓発の取組

「広報えたじま」へのレシピ掲載やスーパーマーケットでレシピを配付して市民への啓発を行い、給食だより等で家庭への啓発を行った。給食では、広島県産の食材を組み合わせたり、全国学校給食週間に合わせて提供したりした。

2. 教科での活用

4年生の算数科「2けたでわるわり算」の単元の中で、ひろしま給食の“ひろしまオールスター★担々丼”の分量を活用した。

<活用内容>

課題「1人分の量を計算し、給食に使ってもらおう」

↑ 計算結果を模造紙にまとめたもの

あらかじめ、担任が材料の分量を、クラス分に計算。(一人分の材料×クラスの人数)

① 給食には1人分の量が必要であることから、クラス分の量から1人分の量を計算した。

(クラスの分量÷クラスの人数)

② その結果を模造紙に表にしてまとめ、栄養教諭に伝えた。

にんじん	252	(式) $252 \div 21$ (答え) 12g	$\begin{array}{r} 12 \\ 2 \overline{) 252} \\ \underline{24} \\ 12 \\ \underline{12} \\ 0 \end{array}$
エリンギ	315	(式) $315 \div 21$ (答え) 15g	$\begin{array}{r} 15 \\ 21 \overline{) 315} \\ \underline{42} \\ 15 \\ \underline{15} \\ 0 \end{array}$
広島菜漬	420	(式) $420 \div 21$ (答え) 20g	$\begin{array}{r} 20 \\ 21 \overline{) 420} \\ \underline{42} \\ 0 \end{array}$
ちりめんじゃこ	105	(式) $105 \div 21$ (答え) 5g	$\begin{array}{r} 5 \\ 21 \overline{) 105} \\ \underline{105} \\ 0 \end{array}$

5 取組に対する成果と課題

【成果】

取組1・全校へ啓発をすることができ、発表する児童自身が朝食の大切さを学ぶ良い機会となった。

- ・事後は「こんな朝ごはんを食べてきた!」、「今日の朝ごはんなんだと思う?」等、児童から朝食に関する話をされるようになり、関心が高まった。

取組2・正しい食事のマナーを知ることができ、意識することができるようになった。

- ・掲示資料にポイントを書いておくことで、各クラスで担任による指導ができた。

ひろしま給食・教科で活用したことにより、そのクラスでは、「こんな材料を使っているんだ。」「味付けはぼくたちが計算したものだ。」等の発言があり、材料や味付けに関心を持つことができた。

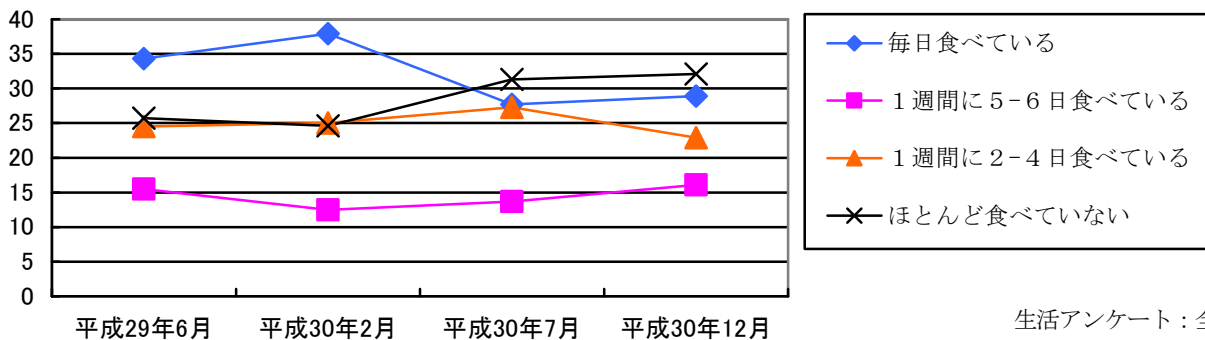
- ・担任にひろしま給食の取組を周知しておくことで、教科への活用へと広がった。

【課題】

取組1・家庭で実践することが難しい。食欲がないことや食べなくても大丈夫、と答える児童もいる。

- ・しっかりした主食，主菜，副菜の朝食を知ってしまったために，ハードルが上がってしまい，食べていないと答える児童が増えた可能性も考えられる。

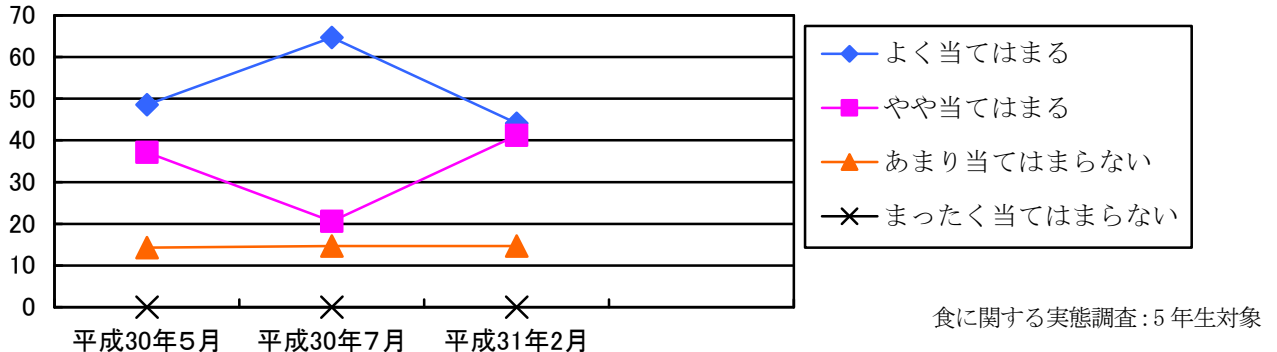
(%) <主食・主菜・副菜のそろった朝ごはんを食べていますか>



取組2・担任による指導内容等，クラスにより差があり，食べる時の姿勢や食べ残しにも課題がみられる。

- ・食器の置き方や持ち方を実践できている児童は増えているが，それが食事のマナーだと知らない児童がいたり，マナーを知ったからこそ，できていないと感じる児童もいると考えられる。

(%) <食器やはしの持ち方のきまりや良い姿勢で食べるなど，マナーを守って食べていますか>



ひろしま給食・給食への関心は高いが，家庭で作って食べるという実践にはつながっていない。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・朝ごはんの食事内容の充実については，保護者の協力が不可欠なので，これからも試食会や食育通信での啓発に努める。また，生活リズムとの関連が深いことから養護教諭等と連携を図り，取組を進めていきたい。
- ・給食時間のマナーや食べ方については，その場で指導できるよう，教職員全体で声かけ等の取組が必要である。